第３期鮫川村デジタル田園都市構想総合戦略

令和８年度　検証・評価・見直しシート

令和８年8月　　7/29現在

鮫　川　村

第３期鮫川村デジタル田園都市構想総合戦略　令和８年度　検証・評価・見直しシート
27項目一覧　※詳細、R7年度の結果（評価）は各シートへ

①新規産業・創業支援事業の推進

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
鮫川村きぎょう・創業支援事業採択数	5	0	3	産業振興課

②スマート農林業の推進

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
スマート農林業機械導入農家数	10	2	5	産業振興課

③人材育成DX推進

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
地域ポイント利用者数	900	150	175	産業振興課

④インフラ整備と観光DX

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
観光及びインバウンド向けコンテンツの作成数	3	0	1	産業振興課

⑤有資格取得支援の推進

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
草刈り講習会の実施	3	3	2	産業振興課

⑥稼げる村への変換

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
有機農業取り組み農家数	10	0	2	産業振興課

⑦郷土文化の伝承

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
祭事への支援	3	0	2	教育課

⑧定住・二地域居住等の推進

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
保育園留学実施世帯数	10	0	12	産業振興課

⑨官民連携の強化

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
地域活性化起業人や地域力創造アドバイザーの導入	3	3	2	産業振興課

⑩体験活動の創出とオンライン関係人口の創出・拡大

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
関係人口創出アプリの登録者	500	0	559	産業振興課

⑪結婚・出産・子育ての支援

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
こども家庭センターの設置	1	0	1	住民福祉課

⑫住民丸ごと憩いの場づくりの推進

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
憩いの場づくり	1	0	0	住民福祉課

⑬こどもを中心とする学習・教育環境の充実とDX推進

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
教育ICT学習支援員の導入	3 （幼小中学校各所1名）	1 （小中学校で1名）	1	教育課

⑭ふるさとキャリア教育の推進

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
地域学校協働本部会議	5	3	3	教育課

⑮学校給食の充実とミールキットの製造

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
村内産食材自給率	50%	36%	19%	産業振興課

⑯地域コミュニティと景観の維持

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
草刈り応援隊員数	70	23	37	産業振興課

⑰地域包括ケアシステムの強化

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
地域通貨を活用したコミュニティ活性化事業	5	0	0	住民福祉課

⑱買い物弱者への支援の強化

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
買い物弱者などの把握（地域包括支援センターとの連携会議）	年4回	年4回	年１回	住民福祉課

⑲つなぐ教育を実現する幼保小中連携の推進

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
総合教育会議の実施	5	2	1	教育課

⑳生涯学習の推進と環境整備

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
公民館利用者数	6,000	5,300	9,432	教育課

㉑医療・介護分野DX

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
地域医療検討会	2	0	1	住民福祉課

㉒多様な暮らし方を支える人間中心のコンパクトで緑豊かなむらづくり

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
デマンド交通の運行	本格運行	実証運行	本格運行	産業振興課

㉓まちづくり、スポーツDX

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
スポーツ施設予約システム利用団体数	5	0	0	教育課

㉔地域資源を生かした個性あふれる地域づくり

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
水質検査	年1回	年1回	年3回	産業振興課

㉕防災・減災、国土強靭化の強化等による安全・安心な地域づくり

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
防災アプリ登録者数	1,000	100	534	総務課

㉖シビックプライドの醸成

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
村に愛着を持っている住民	75%	75%	未計測	産業振興課

㉗生涯現役の推進

目標名	目標値（R9年度）	R6年度結果	R7年度結果	担当課
地域サロン数	15	13	13	住民福祉係

自己評価	備考
A	非常に大きな効果が見られた。
B	一定の効果が見られた。
C	あまり効果が見られなかった。
D	全く効果が見られなかった。

方向性	備考
拡大	今後は拡大させる方向である。
維持	今後も維持していく方向である。
縮小	今後は縮小していく方向である。
廃止	今後は廃止方向である。 ※他の事業に統合させたり、新規事業として組み直す場合　はその旨を備考欄に記してください。

各シート、「評価」「方向性」のセルで回答を選択してください。

総合戦略（第3期）評価シート

基本目標	地方に仕事をつくる	作成日	R8.6.1
主要施策	地域ブランド「まめな暮らし」で稼げる村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
鮫川村きぎょう・創業支援事業採択数	5	0	3	村補助事業を活用した取組となり明確な数値となるため

■R7の取組内容

①	新規産業・創業支援事業の推進	担当課	産業振興課	記入係	企画商工係

人口減少の著しい本村では、新規産業創出が重要であると考えています。スタートアップ企業の輩出に向けて、実証の場の創出支援に努めます。
また、特定地域づくり事業協同組合の活用により、マルチワーカーを村に呼び込み村の新たな産業創出人材の確保を図ります。
さらに、移住者も含めた、創業支援対策の強化が重要です。生活支援ニーズに対応した雇用の創出を目指し、草刈り作業のほか、雪かきなどを担い、豊かな暮らしへの実現へ向けて、人手不足の需要も含めて新たなサービスの創出を実現し、共助のビジネスモデルの構築を支援し、さまざまな分野で小さな創業から支援できる体制を構築します。多地域居住・他地域就労など時間と場所にとらわれない働き方に対応できる村づくりを推進し、魅力的な雇用機会の創出を支援します。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	地産地消と地域循環で稼げる村づくり	村づくりの分野	商工業と雇用対策

取組の成果	鮫川村起業・創業支援補助金 R7実績３件（動物ふれあい体験施設、農家民宿、飲食店） さめがわ未来デザイン協同組合 マルチワーカー登録者：１名	評価	B
推進上の課題	補助金交付後の事業実施後の成果確認 さめがわ未来デザイン協同組合のマルチワーカー登録の推進	方向性	維持
新たな取組や見直しの方向等	起業・創業支援補助金の周知を行い、事業の浸透を図る。 特定地域づくり協働組合の運営に関しては、運営母体と体制の見直しを行い、設立目的に沿った形となるよう調整していく。		

総合戦略（第3期）評価シート

基本目標	地方に仕事をつくる	作成日	R8.6.10
主要施策	地域ブランド「まめな暮らし」で稼げる村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
スマート農林業機械導入農家数	10	2	5	農業担い手の省力化が持続可能な農業経営につながるため

■R7の取組内容

②	スマート農林業の推進	担当課	産業振興課	記入係	農林畜産係

スマート農林業は、担い手不足の中山間地域だからこそ推進していく必要があります。
一方、まめな暮らしで育まれる郷土愛も大切です。デジタル技術で代用できる分野は推進し、空いた時間で「手まめな農業」を実施できる体制を支援します。
また、農業関連団体と連携し、センサーやリモート制御による農業機械等の遠隔操作、ドローン等を活用した農薬や肥料の適量散布、AI等を活用した熟練者の技術の再現、アシストスーツを活用した作業の軽労化など技術利活用に向けた検討も始めます。
ICT等を活用した森林施業の効率化や高度な木材生産、森林における通信の確保、デジタル林業戦略拠点の創出に取り組みます。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	地産地消と地域循環で稼げる村づくり	村づくりの分野	農林業

取組の成果	アイガモロボ、ラジコン草刈機等のスマート農業機械を導入し、試験的に有機の米づくり、にんじん栽培を実施した	評価	B
推進上の課題	スマート農業に取り組む担い手の確保、省力化を図り収益性の向上につなげることができるかが課題	方向性	拡大
新たな取組や見直しの方向等	農業用ドローンを使用した肥料等の散布、水位センサーを活用した稲作経営		

総合戦略（第3期）評価シート

基本目標	地方に仕事をつくる	作成日	R8.6.1
主要施策	地域ブランド「まめな暮らし」で稼げる村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
地域ポイント利用者数	900	150	175	関係人口創出アプリで導入した地域ポイントを有効活用し、村内外の人材を活用できる事業を展開する

■R7の取組内容

③	人材育成DX推進	担当課	産業振興課	記入係	企画商工係

今まで行ってきた人材育成事業を継続し、また地域経済循環との融合を図りつつ、自助・共助の精神の醸成を図り続けることが、過疎地域における地域コミュニティの維持に重要であると考えています。
そこで、間接的に地域ポイントの導入などにより、新たなる地域人材の発掘や地域力の向上を図るための施策を行います。昨今、有償ボランティア制度が主流のため近隣町村の人材活用も検討します。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	地産地消と地域循環で稼げる村づくり	村づくりの分野	関係人口の創造

取組の成果	草刈り応援隊「刈上げ鮫」などの地域貢献コミュニティの構築ができた。 ローカル・ゼブラ創出事業により、実行組織立上げに向けた学習会が行われ、組織化に向けた機運が醸成された。	評価	C
推進上の課題	地域コミュニティの維持には、地域経済の循環や、自助・共助の精神の醸成を図り続けることが重要である一方、地域力を維持し続けるために、地域人材の人材不足が最重要課題となっている。	方向性	維持
新たな取組や見直しの方向等	住民団体が活動しやすい環境を創出し、活動のバックアップ体制を充実させる。 また、関係人口創出アプリ「さめがわむらぶ」の地域ポイント制度については、村主催のボランティアイベントによる付与制度が浸透していないため、再度周知を図り、村内外からの参加を呼び掛ける。		

総合戦略（第3期）評価シート

基本目標	地方に仕事をつくる	作成日	R8.6.1
主要施策	地域ブランド「まめな暮らし」で稼げる村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
観光及びインバウンド向けコンテンツの作成数	3	0	1	人材不足をコンテンツ等で補うため

■R7の取組内容

④	インフラ整備と観光DX	担当課	産業振興課	記入係	企画商工係

XR技術を活用した観光ニーズへの対応は、へき地だからこそ重要であると考えています。
SNSを活用し、まずは村に関わっていただけそうな地域外の方に対するきっかけづくりを提供し、この村に「来てみたい・住んでみたい・住み続けたい」と思える村づくりの実現を目指していきます。
村道姿平鹿角平線や村道世々麦西谷地線など観光地へのアクセスを向上し、観光客及びサイクリストの誘客を図りながら、人の流れを創出します。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	心豊かな生活が送れるむらづくり	村づくりの分野	公共交通・道路

取組の成果	「鮫川村観光ガイドブック」の翻訳（電子サイト）…1件 SNS（主にInstagram）を活用し、さめがわの四季を題材としたフォトコンテストを開催し誘客に務めた。 地方創生道整備推進交付金の活用により、村道姿平鹿角平線及び村道世々麦西谷地線の再整備を行っている。	評価	A
推進上の課題	ＳＮＳについては、行政が発信者となるため閲覧者が少ないのが現状であるが、まずは村ＳＮＳの存在を知ってもらうための仕掛けが必要である。	方向性	拡大
新たな取組や見直しの方向等	ＳＮＳは拡散力がある若年層をターゲットに向けた情報発信に努めていく。イベント及び観光地へのアクセスを向上させながら、お金を落としてもらうための集客導線につながる事業を実施していく。		

総合戦略（第3期）評価シート

基本目標	地方に仕事をつくる	作成日	R8.6.1
主要施策	地域ブランド「まめな暮らし」で稼げる村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
草刈り講習会の実施	3	3	2	村の担い手となり得る人材を育成するとともに、きっかけづくりとなるため

■取組内容

⑤	有資格取得支援の推進	担当課	産業振興課	記入係	企画商工係

こどもたちが、試行錯誤できる環境（親が見守れる環境）と親の知恵を伝承できる環境整備を推進します。そのため村の名人とも交流、自然体験活動指導員の設置や地域学校活動推進員の増員などが、今後の村に必要となっています。

村シルバー人材センターでも人員不足が深刻となり、里山景観の維持が課題となってくる。村民が自主的に景観整備を行えるよう、草刈りやチェーンソー取扱いの講習会を開催し受講料を支援するなど、持続可能な取組みとする。

農家民宿の開業支援などを通じて、特色ある運営のための、自然活動体験活動支援員の取得を推進していきます。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	地産地消と地域循環で稼げる村づくり	村づくりの分野	商工業と雇用対策

取組の成果	草刈り講習会を実施したことにより、景観整備を安全に実施するための知識の習得と景観整備に興味・関心がある人材の発掘につながった。	評価	B
推進上の課題	里山景観の維持については、少子高齢化により担い手不足が深刻になってきている。また、講習会参加者が継続した景観整備に協力してくれるかは未定の状況である。	方向性	拡大
新たな取組や見直しの方向等	自然体験活動指導員の設置や地域学校活動推進員については、類似した制度としてボランティアティーチャー制度を実施しているため、引き続き地域コーディネーターと連携し、教育活動を円滑に実施し、生涯学習の成果を地域に還元できる人材育成に努める。 里山景観を創出することが、お金を生むコンテンツに昇華するための仕組みを検討していく。また必要に応じて資格取得支援につながる事業を実施する。		

総合戦略（第3期）評価シート

基本目標	地方に仕事をつくる	作成日	R8.6.10
主要施策	地域ブランド「まめな暮らし」で稼げる村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
有機農業取り組み農家数	10	0	2	高付加価値農業を目指すため

■取組内容

⑥	稼げる村への変換	担当課	産業振興課	記入係	農林畜産係

鮫川特有の文化や村ならではの時間の流れを大切に、一次産業（有機農業）の価値を村内外と共有しながら、村ならではの高付価値化を図り、小さいながらも輝く村、稼げる村づくりに向けて、支援策を検討します。
首都圏と地方との間でWin-Winとなる関係性の構築を図りながら、市場の開拓や良質な雇用の確保に向けて検討していきます。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	地産地消と地域循環で稼げる村づくり	村づくりの分野	農林業

取組の成果	・令和７年度実績　水稲１件、ニンジン栽培１件 ・水稲においては、葉貫地区58aで有機栽培を実践し、アイガモロボ及び水田乗用除草機を導入しながら、労力の軽減と作業時間の短縮が図られた。 ・ニンジンにおいては、福原地区13aで有機栽培を実施し、太陽熱養生処理にて栽培し、清算されたニンジンは学校給食に提供できた。	評価	A
推進上の課題	・農業者の技術の向上を図ること ・農業者の高齢化、担い手不足 ・スマート農業機械が高価である ・除草、防虫をどうするか ・もうかる農業を目指し収益性をどう上げるかが重要	方向性	拡大
新たな取組や見直しの方向等	・できる限りスマート農業で省力化を図る。例えばアイガモロボ、ラジコン草刈機、水位センサーなど ・有機農業栽培技術講習を開催し、技術の向上を図り、収量と収益性アップを目指す		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	人の流れをつくる	作成日	R8.6.18
主要施策	「つながり」を活かす村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
祭事への支援	3	0	2	各地区で行われている支援を検討し、実施していく

■R7の取組内容

⑦	郷土文化の伝承	担当課	教育課	記入係	生涯学習係

村は、第2次振興計画から「文化の香り高い村づくり」を実施してきました。
その中で現在でも残されている伝承文化は大変貴重です。これらの文化を絶やすことなく後世に引継ぎ、古き良き伝統ある村の存続を図ります。
また、各地域で行われている祭事も貴重な地域コミュニティの維持につながります。村民一人ひとりの伝承の機運を醸成し、祭事の維持を支援します。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	健やかな人をみんなで育むむらづくり	村づくりの分野	生涯学習・スポーツ

取組の成果	社会教育活動事業で渡瀬獅子舞保存会に補助金を交付し、維持を図っている。また、中学１年の総合学習で富田の八朔踊りを継承してもらい、伝承文化に触れて学ぶきっかけづくりを行った。	評価	B
推進上の課題	地方文化が忘れられつつあり、高齢化が進み、若者が村外へ移動するなど、文化の伝承が難しくなっている。学校で伝承文化に触れて学ぶ場がないと、維持が難しくなっている。	方向性	維持
新たな取組や見直しの方向等	地域観光と連携し、観光客が伝統文化に触れる機会を増やしたり、公民館事業や学校教育などを利用して、体験を通じた文化を体感できる場を設ける。		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	人の流れをつくる	作成日	R8.6.1
主要施策	「つながり」を活かす村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
保育園留学実施世帯数	10	4	12	保育園留学からデュアルスクールへハードルを上げて、子育て世代に村を実際に楽しんでもらい徐々に定住につなげていく

■R7の取組内容

⑧	定住・二地域居住等の推進	担当課	産業振興課	記入係	企画商工係

これまで培った移住施策のノウハウを活用しながら、コロナ禍により進んだワーケーションやリモートワークの需要を取り込み、小中学校におけるデュアルスクールの導入や未就学児をこどもセンターで受け入れることで、都市部の子育て世代が村に短中期間滞在できるような環境を整え関係者の多様な生き方を後押ししていきます。

それとともに村においても、年々減少していくこどもたちが一定程度の集団として教育を受けられるような環境を整えていくことで、村の子育て世代の不安を軽減し、若い世代が住みたい・住み続けたい・住み続けられる村づくりを進めます。

都市を拠点としながらも、ゆとりある生活や豊かな自然・環境の下、地方の暮らしを体験できるようになるなど、デジタルの力を活用しながら地方創生を進めていきます。

また、地域おこし協力隊の募集にさらに力を入れて取組み、定住者の確保にも努めます。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	地産地消と地域循環で稼げる村づくり	村づくりの分野	移住・定住

取組の成果	保育園留学を利用した家族については、その後にプライベートで本村を訪れ、農家民宿に宿泊し、交流を深めるなど、事業をきっかけに自然な交流が生まれている。	評価	A
推進上の課題	事業をきっかけに移住定住につなげるための仕組みづくり	方向性	維持
新たな取組や見直しの方向等	移住定住につなげるために、短期間滞在し、村の暮らしを体感できる「おためし住宅制度」など支援策の検討を図る。		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	人の流れをつくる	作成日	R8.6.1
主要施策	「つながり」を活かす村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
地域活性化起業人や地域力創造アドバイザーの導入	3	3	2	地域活性化起業人や地域力創造アドバイザーを継続したうえで、地域外の主体も巻き込みながら、村の施策を連携して取組む

■R7の取組内容

⑨	官民連携の強化	担当課	産業振興課	記入係	企画商工係

地方自治体の官民連携が推奨されています。村でも地域活性化起業人や地域力創造アドバイザーの導入などから、さまざまな民間企業とのつながりを波及させ、協働での事業展開なども検討していきます。本村の社会問題を積極的にオープンにしつつ、国・地方公共団体・企業・大学・スタートアップ企業・金融機関など多様な主体が、地域外の主体も巻き込みながら、連携して取組を推進します。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	地産地消と地域循環で稼げる村づくり	村づくりの分野	関係人口の創造

取組の成果	地域活性化起業人においては、手まめ館で充填豆腐を開発し、新たな商品開発やスパリゾートハワイアンズへの販路の開拓を行った。 地域力創造アドバイザーについては、住民主体の地域づくりにつながる学習会を開催し、機運向上を図った。	評価	B
推進上の課題	地域活性化起業人においては、受入年数が最長３年間となっており、最終年度となるため、業務が属人化しないよう誘導する必要がある。 地域力創造アドバイザーについては、地域の火付け役として企画立案・実行支援など地域力を向上するための優れたパフォーマンスが要求されるため、人選が最重要課題。	方向性	維持
新たな取組や見直しの方向等	外部人材の活用については、国から特別交付税措置が受けられるが、事業効果を見極め継続の判断をする。		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	人の流れをつくる	作成日	R8.6.1
主要施策	「つながり」を活かす村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
関係人口創出アプリの登録者	500	469	559	関係人口の創出は重要な施策であるが、定量できるコンテンツとしてアプリの登録者とした

■R7の取組内容

⑩	体験活動の創出と オンライン関係人口の創出・拡大	担当課	産業振興課	記入係	企画商工係

関係人口創出コーディネーターを配置し事業の展開と体験活動の掘り下げを実施していきます。
同時に関係人口創出アプリなどを活用し、関係人口の拡大と助け合いネットワークの実現を図ります。都市部住民がチャレンジできる場として、本村を位置付けるなど、関係人口として地域への関りを深化させていくことで、都市部のキャリアアップ、更には地域の付加価値創出にもつなげていきます。
草刈り応援隊の養成促進など、そこを「関係人口創出の入口」として、本村への人の流れを創出します。草刈り応援隊の活動を動画配信するなど、各種イベントのハイブリット開催を検討しながら、カジュアルに都会の人が地方と関わるきっかけづくりを推進します。
同時に、関係人口創出アプリでは、動向調査を実施。これからの施策は、これらのエビデンスに基づいた事業展開を行えるように進めます。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	地産地消と地域循環で稼げる村づくり	村づくりの分野	関係人口の創造

取組の成果	関係人口創出コーディネーターにおいては、よろず案内所/休憩所を活動拠点とし、村内在住者と村外在住者の橋渡し役として活動した。また保育園留学のコーディネーターとして、きめ細かな対応により、利用者にとって満足度の高い受入れを行うことができている。 関係人口創出アプリ「さめがわむらぶ」は、登録者が本村のいいところ写真などを情報発信できる「部活動」や地域ポイント制度、ファンミーティングの開催により本村との関わりしろに貢献できている。	評価	B
推進上の課題	保育園留学については、財源確保が課題となっている。 関係人口創出アプリを通じた活動が、地域の事業者（観光業や飲食店など）の売上や移住といった「具体的な成果」に結びつきにくい。	方向性	維持
新たな取組や見直しの方向等	保育園留学については、企業版ふるさと納税などを活用し財源確保に努める。 国の「ふるさと住民登録制度」なども令和９年度よりスタートするため、動向を注視する。		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	結婚・出産・子育ての希望をかなえる	作成日	R8.6.11
主要施策	「こどもがまんなか」を実現する村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
こども家庭センターの設置	1	0	1	子育て包括支援センターを拡充し、こども家庭センターを設置し、子育てしやすい環境の充実化を図るため

■R7の取組内容

⑪	結婚・出産・子育ての支援	担当課	住民福祉課	記入係	健康係

（福祉分野）
「こども・子育て支援新制度」に基づき、地域子育て支援拠点事業を充実させ、子育てに対する負担感や不安を軽減し、公共施設等の地域の身近な場所で、乳幼児のいる子育て中の親子の交流や育児相談、情報提供等の場の提供を図ります。各種預かりサービスを通じて多様化する保育ニーズに応えます。
また全ての妊産婦・子育て世帯・こどもに対する切れ目のない、包括的な相談支援体制を整備するため、「こども家庭センター」の設置を検討します。
安全・安心に妊娠・出産ができ、妊産婦本人の居住地にかかわらず、適切な医療や保健サービスが受けられる環境と、関係者が連携して妊産婦の希望に寄り添いながら、継続的な支援を行う体制の整備を図るとともに、電子母子健康手帳や医療相談アプリの導入等の母子保健事業におけるデジタル化の促進に努めます。
医療費助成など保護者の経済的負担の軽減を図るとともに、オンライン相談なども充実させ、いつでも気軽に相談できる体制を整えるとともに、児童虐待の早期発見、防止などに取組み、支援が必要なこどもと家庭を支えます。ふるさと鮫川村で子育てしたい人を支援していきます。
妊娠・出産・子育てに関わる地域ごとの課題を明確化し、それに応じたオーダーメイド型の取組みを分野横断的に展開する「地域アプローチ」による少子化対策の推進について、地域特性の見える化から具体的取組みを始めます。
（教育分野）
子育てや教育にかかる費用負担の軽減を図るため、幼児教育・保育の無償化や低所得者世帯に対する就学支援を引き続き実施するほか、入学祝金や高校生通学支援金など村独自のきめ細やかな支援を進めていきます。保育ICTシステムを導入し、保育教諭の業務負担の軽減を図りつつ、保護者との連絡体制を充実させます。
放課後児童クラブの充実や、地域住民の交流の場を整備することにより、保護者が働きやすい環境を整備します。
また、小中学校におけるデュアルスクールの導入や未就学児をこどもセンターで受け入れることで、都市部の子育て世代が村に短中期間滞在できるような環境を整え関係者の多様な生き方を後押しするとともに、村においても年々減少していくこどもたちが一定程度の集団として教育を受けられるような環境を整えていくことで、村の子育て世代の不安を軽減し、若い世代が住みたい・住み続けたい・住み続けられる村となる「こどもまんなか社会」の実現に向けて進んでいきます。
（むらづくり部門）
AIやビックデータを活用したマッチングシステムの運営などの結婚支援に取組みます。
「ふれあいの場」では、さまざまな方のふれあいが行われるような事業を推進していきます。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	健やかな人をみんなで育むむらづくり	村づくりの分野	子育て支援	
取組の成果	令和7年10月に「鮫川村こども家庭センター設置要綱」を整備し、センターを設置した。母子保健、児童福祉、障害（障害児・医療的ケア児等）、医療（妊産婦・乳幼児・こども）の担当部署がセンター業務を担うことで、情報共有や連携、早期対応が図られた。	評価	A	
推進上の課題	・センター機能が住民に周知されていない。 ・センター内で共有できる様式（個別記録票・相談受理簿、支援プラン様式等）の整備の検討。	方向性	維持	
新たな取組や見直しの方向等	・電子母子健康手帳の機能拡充。 ・小児科、産婦人科、助産師などによる相談支援の充実。			

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	結婚・出産・子育ての希望をかなえる	作成日	R8.6.11
主要施策	「こどもがまんなか」を実現する村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
憩いの場づくり	1	0	0	住民丸ごと憩いの場を整備し、住民コミュニティの活性化を図るため

■R7の取組内容

⑫	住民丸ごと憩いの場づくりの推進	担当課	住民福祉課	記入係	福祉係

村民が気兼ねなく集まる場は、各世代にメリットが生まれると考えます。働く子育て世代は、近くに子育て仲間がいない地域もあり、悩み事や気になることを気軽に相談できる相手を見つけることが難しい時もあります。子どもたちが集まる場には自然と保護者も集まるので、横のつながりが生まれます。

そのような場所にリタイアした大人が子育てに参加してくれることで頼れる味方も増え、地域全体で子育てできる環境が創出できます。高齢者は子どものいるコミュニティに出かける目的ができたので、外出機会が増え生活にはりがでると考えます。さらに村では病児保育の体制を整えたいと考えています。

このプラットフォームで、村の子どもたちは、勉強だけでなく生きる知恵を学び、鮫川村でしか得られない経験をして大人になります。人口減少は避けられませんが、集える場ができたことで村全体がひとつになっていきます。村全体で子育てできる基盤を整えます。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	いきいき健康で暮らせるむらづくり	村づくりの分野	地域コミュニティの強化

取組の成果	生活支援体制整備事業（鮫川ささえ愛隊）の活動において、中学生が作成したイラストに、ちびレンジャーが色を塗ったおせち料理の包装紙を使用することで、高齢者と子どもたちの交流のきっかけづくりを支援した。	評価	A
推進上の課題	多世代での交流拠点の整備、または既存施設の活用の検討。 病児保育の体制整備。	方向性	拡大
新たな取組や見直しの方向等	病児保育の体制整備については、本村単独で進めることは不可能なため、東白川郡内町村や医療機関と連携し、体制整備を検討していく。		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	結婚・出産・子育ての希望をかなえる	作成日	R8.6.2
主要施策	「こどもがまんなか」を実現する村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
教育ICT学習支援員の導入	3（幼小中学校各所1名）	1（小中学校で1名）	1	ICT学習支援員を導入し、これからのデジタル教育の支援を図る

■R7の取組内容

⑬	こどもを中心とする学習・教育環境の充実とDX推進	担当課	教育課	記入係	教育総務係

こどもたちの教育の質を向上させるため、学校における1人1台端末環境の持続的な活用やネットワーク環境の改善を進めるとともに、1人1台端末を用いた効果的な実践例の創出・横展開、円滑な運用の支援とそれに向けた学校・教育委員会の体制強化、デジタル教科書・教材の活用、児童生徒が学校や家庭において学習やアセスメントができるCBTシステムであるMEXCBT（メクビット）の活用、校務DXの推進等により、GIGAスクール構想を環境整備から利活用促進に進めていきます。あわせて、GIGAスクール構想の第2期を見据え、端末の計画的な更新を行います。

こうした取り組みを通じて、教育の機会均等、学校における働き方改革、個別最適な学び等の観点から、都市部と地方の隔たりなく、誰一人取り残すことのない教育を実現します。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	健やかな人をみんなで育むむらづくり	村づくりの分野	教育環境の充実

取組の成果	・令和７年７月から有限会社あぶくま教育とICT支援業務委託契約を締結し、情報分野の指導支援、活用支援、更新等幅広い支援をいただいている。 ・第2期GIGAスクール構想端末更新を実施。 ・インターネットアセスメント調査を行い、小中学校のインターネット速度や安定性等の調査を実施。 ・令和６年度、Excelで作成していた通知票を校務支援システムで作成する運用に切り替えたことで、要録や調査書などとのデータ共有が可能となり、データ入力の誤りを防止するとともに、業務効率化を実現。	評価	A
推進上の課題	・インフラと設備の整備による財政負担。 ・教員、職員のICTリテラシー不足のため、業務用マニュアルの作成やリテラシー向上のための研修が必要。	方向性	拡大
新たな取組や見直しの方向等	福島県で行われた次世代の校務支援システム 環境構築・運用保守業務委託プロポーザル結果に伴う対応。（現在、県からの通知なし。小中学校内田洋行校務支援システム使用中）		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	結婚・出産・子育ての希望をかなえる	作成日	R8.6.8
主要施策	「こどもがまんなか」を実現する村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
地域学校協働本部会議 ※未設置	5	3	3	地域学校協働本部会議を充実させ、ふるさとキャリア教育の充実を図る

■R7の取組内容

⑭	ふるさとキャリア教育の推進	担当課	教育課	記入係	生涯学習係

ふるさと鮫川を愛し、誇りに思うこどもたちの育成に努めます。
こどもたちは、村の地域資源を活用した遊びの中で、鮫川村への郷土愛や自然保護の重要性を学んでいきます。
また、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育て、この鮫川村の豊かな自然環境や体験は関係人口創出にもつながります。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	健やかな人をみんなで育むむらづくり	村づくりの分野	教育環境の充実

取組の成果	小・中学校ともに、鮫川村の地域の自然、歴史、文化、伝統行事、産業といった教育資源に直接触れながら学び、ふるさとを愛し、ふるさとに貢献しようという心を育むと共に、その学びをとおして基礎的・凡用的能力を培い、たくましくそして自分らしく生きる力を身につける教育を実施。年間小学校：２３回、中学校：６回実施し、ふるさとキャリア教育「さめがわ学」の充実を図ることが出来た。	評価	A
推進上の課題	ふるさとキャリア教育「さめがわ学」の講師の高齢化が懸念される。若い人の育成や地域コーディネーターの育成が必要。	方向性	拡大
新たな取組や見直しの方向等	実践の部分は充実しているが、「地域学校協働本部会議」の設置が必要不可欠であり、内容を見直しながら実践していく必要がある。		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	結婚・出産・子育ての希望をかなえる	作成日	R8.6.1
主要施策	「こどもがまんなか」を実現する村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
村内産食材自給率	50%	36%	19%	日本の食糧自給率と比較しても上回る数値設定とする

■R7の取組内容

⑮	学校給食の充実とミールキットの製造	担当課	産業振興課	記入係	農林畜産係 企画商工係

鮫川村の学校給食は、積極的に地元産農産物を使用しており、児童生徒、教職員から美味しいと好評です。特に教職員からは、「福島県で1番美味しい給食」と評判です。
また、使用する地元産農産物は「こどもたちのために」できる限り農薬等を使用しない栽培を心掛けて作られています。さらに、鮫川村学校給食センターは全国学校給食甲子園の連続出場、受賞の実績があり、このことがこどもたちの学校給食、地元の農産物、鮫川村に対して誇りをもつことにつながっています。
鮫川村の学校給食は、こどもたちの身体はもちろん、心の豊かさも育んでいます。
この学校給食にさらに磨きをかけ、有機栽培や特別栽培農産物を使用した「オーガニック給食」を提供します。そして「さめがわ給食ミールキット」として販売することで、鮫川村を知ってもらう、味わってもらう、体験してもらう、足を運んでもらうきっかけを創出します。
さらに、生産者自信が農業に魅力を感じ、誇りを持ちながら農業収入でこどもが大学教育まで受けられる環境をつくることで、生産者の減少に歯止めをかけたいと考えています。
このように学校給食を起爆剤に、交流・関係人口の増加、農家の所得向上、食育の推進等、「観光」、「農業」、「教育」等の様々な分野に相乗効果を与え、最終的に村民の幸福度の向上につなげていきたいと考えています。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	地産地消と地域循環で稼げる村づくり	村づくりの分野	農林業 商工業と雇用対策

取組の成果	オーガニックビレッジ宣言し、村が生産から消費まで一貫して地域ぐるみで有機農業を推進する体制を整えた。 ・有機農業栽培技術講習会、先進地視察研修（長野県松川町、伊那市）、アイガモロボ見学会、ミニ家庭菜園運動、ゆうきの郷土づくり検討会（5回）を実施 ・環境保全型農業研究会を立上げ、専門家を招いた講習会実施。 ・給食ミールキット開発プロジェクトチームを立上げ、村の食材を使ったミールキットの考察。	評価	C
推進上の課題	稼げる農業へ転換するため担い手の確保、特に有機農業に取り組む農家の育成、技術の向上を図る必要がある。 ・学校給食への食材提供について、生産者と手まめ館、学校給食をつなぐコーディネーター（調整役）が必要。 ・給食ミールキットについては、製造販売を主体的に実施する体制の確立が必要である。	方向性	拡大
新たな取組や見直しの方向等	・有機農業（学校給食コーディネーター）の地域おこし協力隊を募集 ・アイガモロボやラジコン草刈機などのスマート農業の活用 ・有機栽培マニュアルを作成し、生産方法を確立し、誰もが有機農業にチャレンジできる土壌を作る。 ・学校給食米に村内産の特別栽培米を提供する。（段階的に有機栽培に移行する）。村内で有機栽培で生産した野菜等を学校給食に提供する。 ・給食ミールキットの製造に向けた検討を図る。		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	魅力的な地域をつくる	作成日	R8.6.1
主要施策	「人が集まる」美しい村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
草刈り応援隊員数	70	23	37	令和5年度より実施している草刈り応援隊育成事業は、これからの担い手になる可能性を秘めているため

■R7の取組内容

⑯	地域コミュニティと景観の維持	担当課	産業振興課	記入係	企画商工係

人口減少や高齢化等により地域の担い手が不足することに伴い、地域コミュニティの活力が低下し、災害や感染症の発生時、土地の維持管理などにいかされていた地域の経済・社会のバックアップ機能が失われつつあります。まずは担い手不足を解消するため、関係人口を活用した地域景観維持活動をこまめに実施していきます。
また、村の様々な地域で行われてきたお祭りは人口減少により、広域統合の話も見据える必要があります。お祭りのつながりは地域間の横のつながりを強くする傾向があります。古き良き伝統を、持続可能なやり方で、地域間交流を含めた人と人の結びつきを、伝統・文化の継承により強固な結びつきにしようと考えています。村では今あるお祭りや行われていた行事を継続することで、地域コミュニティが今後も維持できるよう支援します。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	地産地消と地域循環で稼げる村づくり 心豊かな生活が送れるむらづくり	村づくりの分野	関係人口の創造 自然・環境保全・土地利用

取組の成果	・鮫川村地域づくり推進事業の公募を行い、赤坂中野地区で開催される小童会の祭りの支援を行った。 ・美活動刈上げ鮫（ジョーズ）事業により草刈り応援隊を養成 全２回の刈払い機講習会を開催し、村内外の人との交流イベントも開催した。 ・受託業者自らが県事業と連携し、イベントを２回ほど実施。全県内に活動が知れ渡っている状況が伺えた。	評価	B
推進上の課題	美活動刈上げ鮫（ジョーズ）が自立して活動できる体制の構築 人口減少による地域コミュニティの衰退	方向性	維持
新たな取組や見直しの方向等	継続して地域づくり推進に係る事業への支援を実施する。 受託事業と連携し、美活動刈上げ鮫（ジョーズ）が自立して活動できるよう体制構築を図る。		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	魅力的な地域をつくる	作成日	R8.6.11
主要施策	「人が集まる」美しい村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
地域通貨を活用したコミュニティ活性化事業	5	0	0	地域通貨を活用し、新たな人材を掘り起こすきっかけとし、コミュニティ活性化を促すため

■R7の取組内容

⑰	地域包括ケアシステムの強化	担当課	住民福祉課	記入係	福祉係

福祉事業の根幹は村民の生活の基礎を守ることだと考えています。高齢者デイサービスや障がい者の支援など、これまで村のサービス維持を優先する一方で、今後の高齢社会への対応として、地域内の共助体制「結」を支援する仕組みづくりを推進したいと考えています。

2025年には認知症高齢者数は、高齢者の約5人に1人がなると言われています。地域内の共助体制「地域の見守りなどの機能」を維持することにより、認知症の進行を遅延させていきます。

さらに、シェアリングエコノミーの考え方に基づく取組を進めることにより、地域資源の有効活用を図ることが可能になると考えます。こうした取組を横展開することにより、限られたリソースの中で地域の結びつきをより強めていくことで、行政サービスだけに頼らない村づくりを進めます。これは、いつまでも住みやすい村づくりにシフトした考えです。その中で、デジタルの力を活用して地域の共助の取組など目に見えない価値を拾い上げ、地域通貨などによる地域のコミュニティの活性化に取り組む地域も支援していきます。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	いきいき健康で暮らせるむらづくり	村づくりの分野	保健・医療 高齢者・障がい者・地域福祉

取組の成果	認知症とともに暮らせる地域づくり実現のため、チームオレンジ「達者DE ネット」を立ち上げ、認知症カフェを定期開催し、認知症の本人やその家族、地域住民、専門職の情報交換や交流の場となっている。 認知症サポーター養成講座を小学生や関係団体などを対象に開催した。	評価	A
推進上の課題	認知症になっても誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる社会づくりを推進するため、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域や職場で認知症の人やその家族を温かく見守る「認知症サポーター」を育成するため認知症サポーター養成講座を各種団体に広げていきたい。	方向性	拡大
新たな取組や見直しの方向等	認知症サポーターの活動支援として「認知症サポーターステップアップ講座（研修）」の受講を後押しし、地域での具体的なボランティア活動や実践的な対応スキルを身につけたサポーターを増やしていく。 チームオレンジ「達者ＤＥネット」の運営組織の強化を図る。		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	魅力的な地域をつくる	作成日	R8.6.11
主要施策	「人が集まる」美しい村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
買い物弱者などの把握（地域包括支援センターとの連携会議）	年4回	年4回	年１回	安心して暮らせる村づくりを推進するため、今後も地域包括支援センターとの連携を強化する

■R7の取組内容

⑱	買い物弱者への支援の強化	担当課	住民福祉課	記入係	福祉係

買い物困難者など、日常生活の不便を強いられる人々のいる地域も顕在化し、移動販売車による移動販売や高齢者等の移動手段の確保による、買い物支援やお出かけ支援を行います。
また、移動販売車等への行政のデジタル端末設置による多機能化を含め（オンライン診療など、デジタルの活用による地域の高齢者の見守り、スマートフォン等を介した交流の場の提供、土地利用・管理DXの実装や、公民館・図書館などの社会教育施設の活用促進）、多様な組織や主体がデジタル技術も活用して効果的に連携し、地域における必要なサービスの提供・地域コミュニティの補完的な取組みで、安心して暮らせる村づくりを進めます。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	いきいき健康で暮らせるむらづくり	村づくりの分野	高齢者・障がい者・地域福祉

取組の成果	買い物支援やお出かけ支援については、地域包括支援センター職員が訪問活動等において支援の必要な高齢者を把握したうえで地域ケア会議や個別ケア会議を開催し情報共有を図り必要な機関につなげている。	評価	A
推進上の課題	新たなニーズの掘り起こし	方向性	拡大
新たな取組や見直しの方向等	特になし		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	魅力的な地域をつくる	作成日	R8.6.17
主要施策	「人が集まる」美しい村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
総合教育会議の実施	5	2	1	村が目指すこども像を共有するため、総合教育会議を実施していく

■R7の取組内容

⑲	つなぐ教育を実現する 幼保小中連携の推進	担当課	教育課	記入係	教育総務係

幼保、小中学校の系統性を重視した「つなぐ教育」を推進しながら、村が目指すこども像を共有し、小中学校の9年間に通じた一貫教育による魅力のある学校、通わせたくなる学校を創造するため、義務教育学校設立に向けた検討を進めます。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	健やかな人をみんなで育むむらづくり	村づくりの分野	教育環境の充実

取組の成果	・教職員研修会では、５つの柱についての現状と今後取り組んでいきたいことについて共有した。 ・小・中学校で実施した授業研究会を通して、校種を超えた相互理解と教職員の指導力向上を図ることができた。	評価	B
推進上の課題	・幼保小中全体で集まる機会が少ない。	方向性	拡大
新たな取組や見直しの方向等	・幼保小中の３校で共有して取り組んでいきたいこと（あいさつ、家庭学習、睡眠時間、メディア利用時間）について、次年度以降取り組みを推進していきたい。		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	魅力的な地域をつくる	作成日	R8.6.8
主要施策	「人が集まる」美しい村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
公民館利用者数	6,000	5,300	9,432	生涯学習の推進と生涯現役者数の把握として公民館利用者数の増加を目指すため

■R7の取組内容

⑳	生涯学習の推進と環境整備	担当課	教育課	記入係	生涯学習係

地域の資源や人材が限られている中で、活気があふれ、ぬくもりのある地域をつくるためには、性別や年齢、障害の有無等を問わず、一人ひとりが個性と多様性を尊重され、それぞれの希望に応じて自らの持つ能力を発揮し、生きがいを感じながら暮らすことができる地域コミュニティの実現が不可欠です。

そのため、女性、若者、高齢者、障がい者など、誰もが居場所と役割を持って活躍できるコミュニティづくりとして、「交流・居場所」、「活躍・仕事」、「住まい」、「健康」、「人の流れ」といった観点で横断的かつ一体的な地域の取組を支援する全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」について、アプリを活用して地域住民の健康増進と交流機会の拡充を行う健康ポイント事業、子育て中の女性が育児と両立しながら働ける環境づくりと人手不足で悩む地元企業との交流をオンライン上で一体的に行うワークシェアリング事業など、継続性のある取り組みを推進します。

生きがいを持っている高齢者は若い人たちにもとても魅力的に見えます。そういった高齢者を増やすことを目的に、公民館で行われる生涯学習講座は、住民が主役となる活発な活動を支援します。また、日々の外出機会が増えることで健康寿命の延伸も図ります。広域連携が今後の過疎地域には必須になってくると考えています。地元の人材も減少していくなか、近隣町村との連携を強化しながら村内だけでなく、公民館事業などで他町村での活動機会が増え、ますます住民の活躍の場が増えると考えています。こういった小さな活動から広域連携を強化していきます。

村民の自主的な活動が増えることで、地域活動団体も増え、村民主体の村づくりが進んでくると、鮫川村を愛する村民が、自分のできることで、地域で活躍することで、自分たちの村を自分たちで守るという意識の醸成ができると考えています。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	健やかな人をみんなで育むむらづくり	村づくりの分野	生涯学習・スポーツ 歴史・文化芸術・文化財

取組の成果	公民館で行われる生涯学習講座を通して、村民の自主的な活動の場が増えることで、地域活動団体も増え、村民主体の村づくりが進んでいる。そのため、鮫川村を愛する村民が、自分のできることや地域で活躍することで、自分たちの村を自分たちで守るという意識が高まっている。（生涯学習・スポーツ・歴史・文化芸術・文化財講座の開催数：６３以上） そのため、公民館利用者がはるかに多くなっている。	評価	A
推進上の課題	子どもから高齢者までの幅広い年齢層の参加者はいるものの、参加者が限定されている事や中間層の参加者が少ないことが懸念される。	方向性	拡大
新たな取組や見直しの方向等	公民館利用者が利用しやすい環境づくりが必要。また、中間層が多く参加しやすい事業を計画する必要がある。		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	魅力的な地域をつくる	作成日	R8.6.11
主要施策	「人が集まる」美しい村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
地域医療検討会	2	0	1	地域医療を検討する場を設け、地域のオーダーにあった体制の構築に向けて検討会を実施する

■R7の取組内容

㉑	医療・介護分野DX	担当課	住民福祉課	記入係	健康係

オンライン診療の整備や、宅配医療の体制づくりは今後の過疎地医療において推進していく分野です。また、深刻な介護人材不足などの状況を緩和するため、本村でも検討を重ね、導入できるところと出来ない分野をしっかりと棲み分けて実施します。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	いきいき健康で暮らせるむらづくり	村づくりの分野	保健・医療

取組の成果	産婦人科医や小児科医不足の解消のため、東白川4町村でオンラインでの相談ができる体制づくりを目指し、株式会社KidsPublicとの協議により、R7に無料トライアルを実施。その実績を基に4町村で主管課長、担当者による話し合いを行い、R8から導入となった。	評価	A
推進上の課題	利用対象者への周知	方向性	維持
新たな取組や見直しの方向等	令和８年度から正式に導入した東白川４町村共同のオンライン相談体制の周知を行い、安心して出産や子育てができる体制を確立する。		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	魅力的な地域をつくる	作成日	R8.6.1
主要施策	「人が集まる」美しい村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
デマンド交通の運行	本格運行	実証運行	本格運行	デマンド交通の実施により、環境にも配慮した、賑わいづくりを実施するもの

■R7の取組内容

㉒	多様な暮らし方を支える人間中心のコンパクトで緑豊かなむらづくり	担当課	産業振興課	記入係	企画商工係

買い物や通院等に利用するための十分な移動手段やこれを支えるインフラが確保されていることも重要です。自動運転の活用場面のさらなる拡大、キャッシュレス設備の導入、運行管理システムの導入など公共交通分野に係るデジタル化や先進技術の活用を一層進めるとともに、①官と民、②交通事業者間、③他分野との「３つの共創」により、地域交通を「リ・デザイン」し、自家用車を持たない高齢者を始めとする地域住民の移動手段を確保することを可能とする多様な暮らし方を支える人間中心の村づくりを実現し、持続可能な生活をするため、コンパクトでゆとりとにぎわいのある村づくりに取り組みます。
そのため、生活サービス機能と居住を中心拠点や生活拠点に誘導し公共交通で結ぶコンパクト・プラス・ネットワークの取組及び官民の既存ストックの活用による多様な働き方・暮らし方に対応した「居心地が良く歩きたくなる」村づくりを実現します。
また、地域において様々な人を受け入れる「寛容性と多様性」を育むとともに、内外の多様な人材をひきつける魅力的な空間・拠点づくりを行い、地方におけるイノベーション創発を促進していきます。
加えて、気候変動対応、生物多様性の確保や人々のWell-being向上等に向けて、緑地の多様な機能をいかすとともに、エネルギーの効率的な利用を図るため、民間資金調達のための緑地の確保を伴う事業の客観的な評価制度の創設等まちづくりGX に取組みます。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	心豊かな生活が送れるむらづくり	村づくりの分野	公共交通・道路 自然・環境保全・土地利用

取組の成果	事業名：デマンド交通事業（9月末まで実証事業、10月～本格運行） 事業内容：地域の足の確保として、ドアツードアで移動可能なデマンド交通の運行を行い、村民の足として一定の成果を得られた。	評価	B
推進上の課題	総利用登録者：276人（R8.3.31現在） 総利用者数：1,042人（R8.3.31現在） 1日あたりの利用者数：3.7人 乗り入れ範囲：村内全域、塙町（磐城塙駅、塙厚生病院）、棚倉町（磐城棚倉駅、ヨークベニマル棚倉店）	方向性	拡大
新たな取組や見直しの方向等	地域公共交通計画に基づき各種取組みを実施する。 また、既存の路線バスとの整合を図りながら、より効率的な運行ができるよう検討していく。		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	魅力的な地域をつくる	作成日	R8.6.19
主要施策	「人が集まる」美しい村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
スポーツ施設予約システム利用団体数	5	0	0	住民が住みやすく・活動しやすい村づくりのため、予約システムの活用により、空いた隙間時間にもスポーツが可能にできるようにする

■R7の取組内容

㉓	まちづくり、スポーツDX	担当課	教育課	記入係	生涯学習係

住民のニーズに合ったデジタル化とデジタルデバイド対策事業の推進を図ります。
また、スポーツ活動の施設利用予約システム整備や情報発信機能の強化などを実施し、住民が住みやすい村づくりの推進を図ります。
地方の大きな魅力として、各地域が育んできた文化や芸術、スポーツに関する活動が挙げられるため、地方の特色ある歴史や文化・スポーツ、食といった有形・無形の資産の価値を高める取組を進めます。地域の魅力的な文化財のハード・ソフト両面からの上質で思い切った活用や、文化施設のインバウンドも視野に入れた高付加価値化等を通じた文化観光の更なる推進に取り組みます。
地方の魅力を広く世界に発信し、デジタル技術の活用等による地域のにぎわいづくりを目指します。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	健やかな人をみんなで育むむらづくり	村づくりの分野	生涯学習・スポーツ

取組の成果	さめがわスポーツクラブ考案のニュースポーツ「カロッチャ」の推進 チャレンジスクールやさめ学で鮫川村の文化を学ぶ機会を設けている。スポーツDXについては取り組んでいない。	評価	C
推進上の課題	体育施設の施設利用が特定の団体や個人であるため廃止する	方向性	現状維持
新たな取組や見直しの方向等	鮫川村ホームページの見直し（スポーツ・文化関連の内容の整理）		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	魅力的な地域をつくる	作成日	R8.6.10
主要施策	「人が集まる」美しい村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
水質検査	年1回	年1回	年3回	村の環境維持を図る1つの手段として、毎年水質検査を行う

■R7の取組内容

㉔	地域資源を生かした 個性あふれる地域づくり	担当課	地域整備課	記入係	環境係

本村は豊かな自然や魅力ある多彩な地域資源・文化等を有し、次の時代につなぐ価値ある拠点としての可能性を秘めています。
村づくり全体を牽引する農業の維持・発展に向け、農業生産基盤の一層の充実や担い手の育成・確保による経営体制の強化を進めながら、「まめで達者な村づくり事業」の継承とバイオマスビレッジ構想の発展等による農業の６次産業化 や地産地消の一層の展開、「有機の里づくり（オーガニックビレッジ構想）」事業の推進による有機農業の確立と循環型社会の形成をはじめ、有害鳥獣対策の推進などの取組を一体的に推進します。
また、地域内で資金が適切に循環する経済構造を確立した地域を作り出すことも重要です。地域資源を生かした脱炭素やエネルギー地産地消のための取組、気候変動への適応、資源循環等をデジタルと掛け合わせることによって、効率的に地域のエネルギー自給率を高めるほか、地域経済活性化、脱炭素化への地域経済の円滑な移行、レジリエンス の向上など、地域循環共生圏の考え方を踏まえた地域の持続可能性を高める取組みを進めます。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	地産地消と地域循環で稼げるむらづくり	村づくりの分野	農林業
村づくりの方向性	心豊かな生活が送れるむらづくり	村づくりの分野	農林業

取組の成果	令和７年度においては、村内の河川１２か所について水質検査を実施した。いずれの採取場所でも異常は見られず、環境基準を満たした水質であることが確認された。	評価	A
推進上の課題	一部、養豚場の下流域では、他の河川と比較し高めの値を示しているため、事業所に排水対策を求めているが企業努力となっている。	方向性	維持
新たな取組や見直しの方向等	村では、環境保全型農業で生産した農産物を学校給食に提供するため、オーガニックビレッジ宣言を行い、子どもたちに安全安心な給食の提供を目指す。一部の河川においては、水質の改善を図るため県と共同しながら改善指導を行っていく。		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	魅力的な地域をつくる	作成日	R8.6.15
主要施策	「人が集まる」美しい村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
防災アプリ登録者数	1,000	100	534	防災機能を網羅したアプリを普及させるため

■R7の取組内容

㉕	防災・減災、国土強靭化の強化等による安全・安心な地域づくり	担当課	総務課	記入係	総務係

線状降水帯による大雨など、災害が激甚化、頻発化する中で、村民の生命・財産を守り、災害による被害を最小限に止めることはとても重要です。
防災・減災、国土強靭化の取組を強化していくことが必要です。国が策定する国土強靭化基本計画において「デジタル等新技術の活用による国土強靭化施策の高度化」を新たに位置付けたことを踏まえ、本村においてもデジタル技術を最大限活用するとともに、単なるデジタル技術の活用にとどまらない防災ＤＸの取組みにより、人々が安心して住み続けられる環境づくりにデジタル技術を生かします。具体的には、複数の地方公共団体が参画する災害対応基盤への参加のほか、災害対応現場のデジタル化を一層推進するため、デジタルツイン などの最先端技術の開発等に向けたさらなる環境の整備、高精度測位情報と地理情報システムを組み合わせた「Ｇ空間情報」を活用した統合型Ｇ空間防災・減災システムの構築など、より高度な防災情報の利活用の実現に向けた対応を推進します。
また、地域を支えるインフラの維持管理を着実に行うことも安心して暮らせる地域づくりを行ううえで重要な要素です。デジタルデータの活用等を一層推進することにより、国土強靭化の一つとしてインフラの効率的なメンテナンスを実現していきます。
また、点在する避難施設の一元化や防災備蓄倉庫の整備等、防災拠点施設の整備を進めるとともに、老朽化が進む消防水利施設や防犯灯等を定期的に更新し、安心安全な村づくりを進め、有事に備えていきます。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	心豊かな生活が送れるむらづくり	村づくりの分野	消防防災・安全対策 自然・環境保全・土地利用

取組の成果	広報やチラシ、会議等で啓発活動を行い徐々に登録者数を増やしている。	評価	B
推進上の課題	人口減少で高齢化率45.97%（R8.6.1）と高く、スマートフォン未所持や操作不慣れな住民が多い。若者が少なく家族内支援も期待しにくいため、防災アプリの導入・設定でつまずき普及が進まないことが課題。	方向性	拡大
新たな取組や見直しの方向等	義務教育学校の建設に合わせて、防災機能を兼ねる施設の整備を検討していく。		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	魅力的な地域をつくる	作成日	R8.6.1
主要施策	「人が集まる」美しい村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
村に愛着を持っている住民	75%	75%	未計測	5年に一度の住民アンケートで、村に愛着を持っているかアンケートを行うので定量的な統計が計測できるため

■R7の取組内容

㉖	シビックプライドの醸成	担当課	産業振興課	記入係	企画商工係

シビックプライドは、「自分が住んでいる地域に対する誇り」と定義されていますが、ここでは住民が自分たちの地域や自治体に誇りをもち、それを支え改善しようとする姿勢をあらわします。
大切なのは、その地域社会に住む一住民として、地域の発展に貢献していこうという意識で、その当事者意識こそがシビックプライドであります。こういった意識のもと取った行動により、村の人も地域外の人にとってもお互いに幸福度が向上するWin-Winの関係ができ上がっていきます。こういった視点にたてる人の育成を目指します。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	これからを支える確かな行財政運営と協働のむらづくり	村づくりの分野	協働のむらづくり

取組の成果	第４次鮫川村振興計画後期基本計画の事業評価を実施し、分野別計画のすべての「具体的施策」を評価した達成度は82.3点となった。 ・草刈り応援隊や地域づくり事業協同組合などの、住民主体の地域貢献事業が展開されるなど、一定の成果が見られた。	評価	C
推進上の課題	シビックプライドの醸成は全体的な事業の積み重ねにより醸成されていくため、住民がまちの主体者として関わる機会を創出し、地域のビジョンや魅力を共有することが必要である。	方向性	維持
新たな取組や見直しの方向等	引き続き事業評価を実施し、効果検証した結果を施策に反映し、住民幸福度の向上とシビックプライドの醸成を図っていく。		

総合戦略（第３期）評価シート

基本目標	魅力的な地域をつくる	作成日	R8.6.11
主要施策	「人が集まる」美しい村づくり		

■ＫＰＩ

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	目標値	R6年度結果数値	R7年度結果数値	結果数値についての考察
地域サロン数	15	13	13	地域サロン数を維持し、今後も百年時代に対応できる、介護制度の維持を図るため

■R7の取組内容

㉗	生涯現役の推進	担当課	住民福祉課	記入係	福祉係

人口規模10万人前後を一つの目安としつつ、地域の実情に応じて地域の関係者がデジタルを活用して自らデザインする「地域生活圏」の形成を推進する中でも、「人生百年時代」に突入しています。いつでもだれでもが健康で暮らせる村づくりを推進します。
地域サロンの拡充、クロリティーやグラウンドゴルフの大会支援や各種協会の育成などにより、住民が自ら活動できる場の構築支援を図ります。また、草刈り応援隊の指導など、小さなことでも指導者として活躍して頂けるような場の創出を図ります。

村づくりの方向性と分野を記入すること

村づくりの方向性	いきいき健康で暮らせるむらづくり	村づくりの分野	高齢者・障がい者・地域福祉
村づくりの方向性	いきいき健康で暮らせるむらづくり	村づくりの分野	地域コミュニティの強化

取組の成果	生活支援体制整備事業による生活支援コーディネーターが、地域サロンの情報収集やニーズの聞き取り活動のほか、「新規地域サロン」の立ち上げをサポートするなど地域コミュニティの拠点の一つとしてサロン活動を支援している。	評価	A
推進上の課題	高齢化による活動の維持 人口減少により通いの場まで移動手段の確保	方向性	拡大
新たな取組や見直しの方向等	引き続きサロン活動の支援を行い、地域コミュニティの維持に努めていく。 サロンの活動の中にフレイル予防を取り入れ、健康寿命の延伸に努める。		